

できることを できるときに できるところから

自分のできるレベルを選んで支援する学校支援事業

鹿児島県いちき串木野市教育委員会

組みを構築する」と位置づけ、学校支援事業のねらいに沿って地域の活性化や学校を中心とした地域づくりに取り組んでいます。

自分のできるレベルを選んで支援

平成20年度から「学校の応援団を募集します」をキャッチフレーズに、市来地域の全世帯（約2300戸）へ、学校支援事業の趣旨等を掲載したボランティア募集用のチラシを配布しました。

学校支援ボランティアの募集にあたっては、「できることを、できるときに、できるところから」を目標に掲げ、支援内容をレベル1からレベル5まで設定し、地域住民が気軽に登録でき、自らが可能な範囲で学校支援に参画する意識を高めるように工夫しました。

例えば、レベル1では「自分のできる時間に、できる範囲で支援する」として、散歩や農作業の合間にもできる登下校時の見守りや学校行事への参加等を依頼しています。レベル5では「学校の要請に応じて教科指導や自分の経験等を生かして支援する」として、教科指導の補助や部活動の支援等を依頼しています。

現在、市来地域を中心に、個人137人、企業42社が学校支援ボランティアとして登録しています。個人は、音楽・家庭・習字・体育等の実技系の教科をはじめ

はじめに

いちき串木野市は、平成17年10月に「串木野市」と「市来町」が合併して誕生した人口約3万人の市です。鹿児島県薩摩半島北西部の東シナ海に面し、日本3大砂丘の1つである吹上浜の北端に位置しています。近代日本の黎明をつげた薩摩藩留学生渡欧の地として、また、つけあげやまぐろラーメン（遠洋マグロ漁業の船籍全国1位）等、食の街としても知られています。

当市は、平成20年度から、市来地域にある市来小学校、川上小学校、市来中学校の3校を対象に学校支援地域本部事業を実施し、平成22年度からは、学校教育課と連携して市内全校（14校）で事業を展開しています。

本稿では、市来地域での「いちき地域学校支援事業」の取組を中心に紹介します。

「いちき地域学校支援事業」のねらい

近年の核家族化、少子化等、家族形態の変化や地域のきずなの希薄化等に伴い、本来子どもが身に付けるべき礼儀や生活習慣、規範意識、社会的マナーが十分に備わっていないなど、家庭や地域における教育力の低下が指摘されています。

このような状況を踏まえ、当市教育委員会では「新しい時代のいちき串木野を担う心豊かでたくましい人づくり」を目標に掲げ、学力アップ、思いアップ、体力・気力アップの「教育3アップ作戦」の展開や「開かれた学校づくり」、「地域全体で子どもを守り育てる環境づくり」等を具体的な推進事項として取り組んでいます。

そのため、当市の教育課題の解決を図り、学校・家庭・地域・地元企業等が一体となり「地域ぐるみで子どもを育てる体制」を整えることをねらいに、「学校支援事業」を実施しています。

平成21年度に策定した本市の教育振興基本計画の中でも、「地域全体で子どもを育むことができるよう、その教育力を高めるとともに、地域が学校を支える仕

**地域住民や企業等が応援する学校支援事業
～自分のできるレベルを選んで支援していただいています～**

◆レベル1自分のできる時間とできる範囲で支援する

【安全対策関係】散歩やジョギング、買い物、農作業の合間などに登下校の児童・生徒の様子を見守る。
【学校行事への参加】各小・中学校で実施される地域が育む「かごしまの教育」県民週間、運動会、文化祭、学習発表会等へ参加する。



教育県民週間の交流

◆レベル2自分ができる時間で一定の回数で支援する

【安全対策関係】週に数回程度、児童の登下校の時間帯に自分の家の付近を散歩しながら、登下校中の児童生徒の安全を見守る。
【環境整備】近くの学校のPTA奉仕作業（年1回程度）に参加する。



奉仕作業へ参加

◆レベル3自分のできる範囲で決まった時間の中で支援する

【安全対策関係】小・中学校の登下校時の安全の見守りとして、登校時間（午前7時～）下校時間（午後2時～）の決まった範囲の中で1時間程度の活動をする。
【環境整備】学校の要請に応じて計画される学校の落ち葉拾いや草取りなどの作業（年間2～3回程度、約2時間）に参加する。



毎朝の交通指導

◆レベル4学校の要請に応じて決まった時間の中で支援する

【安全対策関係】校外活動時の見守り活動（スケッチ大会や見学習など、校外で移動等を伴う活動時の安全指導や活動補助等）を実施する。
【環境整備】校舎内外の樹木の剪定、学校園・学級園の花植え手入れ作業に参加する。
【総合的な学習の時間等】体験活動（植え付け・除草・収穫）の指導及び支援をする。



補修点検・整備

◆レベル5 学校の要請に応じて教科指導や自分の経験等を生かして支援する

【教科指導】小・中学校の教科指導（各教科や書写・調理実習等の実技指導）を支援する。
【その他】読み聞かせ活動、教科の個別学習の支援、クラブ活動・部活動・水泳・陸上などの指導補助をする。



書き初めの指導

め、クラブ活動や部活動・テスト前質問教室などの教科外の支援、米作り・芋植え等の体験活動、花壇の手入れ等の環境整備や安全パトロール等の安全安心な教育環境づくりなどを支援しています。また、企業は、学校の施設・設備の補修や点検、樹木の剪定等の環境整備や職場体験活動などを支援しています。昨年度の支援実績は、支援回数が延べ672回、支援人数が延べ1430人となっています。

学校支援活動へ寄せられた声から

学校支援の活動へは、「自分たちが卒業した学校をきれいにするのはうれしい。地域の結びつきを感じた」（ボランティア）、「支援してくださる方が1人入ってくださるだけで、とてもスムーズに授業ができてありがたかった」（教師）、「教えてもらえてとてもよかったです。また来てくださったらうれしい」（子ども）、「

「同じ地域の身近な人にボランティアとして学校で教えてもらえることは、親近感を感じる」（保護者）、「地域にある学校のために企業としても力になりたい」（企業）などの声が寄せられています。学校支援の活動が、学校を中心とした地域住民の絆づくりや地域の活性化にも結びつきつつあります。

（社会教育課長補佐 福宏人）